

氏名	近 藤 淳 一
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 3728号
学位授与の日付	平成14年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Mutations in the Hepatitis B Virus PreS2 Region and Abrogated Receptor Activity for Polymerized Human Albumin (B型肝炎ウイルスPre-S2領域遺伝子変異と重合化ヒトアルブミン 結合活性消失の関連性)
論文審査委員	教授 加藤 宜之 教授 小出 典男 教授 山田 雅夫

学位論文内容の要旨

B型肝炎ウイルス (HBV) の Pre-S2 領域は、ウイルス増殖に関連するポリマー化ヒトアルブミンレセプター活性 (human polymerized albumin receptor((PAR))activity)を示す部位を含んでいると報告されている。今回、178人の HbeAg 陽性の HB キャリアーにおいて PAR 活性と DNA ポリメラーゼを調べ従来から観察されている正の相関関係を確認した。しかし、ウイルス増殖が活発であるにも関わらず PAR 活性が欠如している2症例の例外を認めその Pre-S 領域の遺伝子配列を解析した。配列は、PCR 産物から direct sequence 法により決定された。1例では Pre-S2 領域の PAR 活性に関わると推定される領域内に 45 塩基の deletion を認めた。また、もう1例では Pre-S2 領域の開始コドン (ATG) が GTG に変異していた。以上より、Pre-S2 領域がポリマー化アルブミンに結合するのに必要であり、そしてまた、PAR 活性の欠如した、ないしは、低い変異ウイルスが自然界に存在する事を報告した第一報である。

論文審査結果の要旨

本研究はHBe抗原陽性のB型肝炎ウイルス (HBV) キャリアー178症例の内、DNAポリメラーゼ活性が高値にもかかわらず、ポリマー化ヒトアルブミンレセプター (PAR) 活性が持続的低値を示す稀な2症例について、Pre-S領域の塩基配列を解析したもので、Pre-S領域における開始コドンの変異や deletionが認められ、その事がPAR活性の低下を生じさせているのではないかと示唆される結果を得たことから価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。